



Title	大阪大学国際シンポジウム参加者登録におけるデータ処理
Author(s)	三谷, 康範
Citation	大阪大学低温センターだより. 1989, 66, p. 16-17
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/8962">https://hdl.handle.net/11094/8962</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 国際シンポジウム参加者登録におけるデータ処理

低温センター 三谷 康範（吹田4106）

本誌No65でも紹介されたように、昨年10月「超電導工学の新しい発展」をテーマとして大阪大学国際シンポジウム（参加総数380名）が開催された。本メモ（実験メモと呼べるか否かは甚だ疑問ではあるが）では、その参加登録事務において行った名簿データの処理方法について紹介する。

データの登録は、パソコン用コンピュータ上で動作する「表計算プログラム」を用いた。最近のこの種のソフトは、データの検索、並び替え、印刷、グラフ化など多くの機能を高速に処理できるものが数多く出回っている。また、一連の処理を一つのキー操作に割り当てるマクロ機能が備わっており、ここで述べるシンポジウムの参加者整理などにはうってつけである。

計算機処理によって対応したた業務は、参加者および講演者の登録、各種案内（参加呼びかけ、論文作成要項、講演プログラム、論文集等）の送付の管理、当日の受付並びに参加者の名札の発行、論文集代金の入金管理である。これらに対応するために、シンポジウム用に登録した個人情報を以下にまとめ る。

1. 氏名、所属、住所、TEL、FAX…一般的な個人情報である
2. 参加登録順に付したコード番号…1人に1番号を割り当てた（検索にも役立つ）
3. 参加種別…本シンポジウムでは、招待講演、一般講演、一般参加に分類された
4. 論文集・バンケット代金支払いの情報…支払いの有無、金額、入金日
5. 氏名、所属の英字データ…検索並びに当日の名札印刷にも利用

これらのデータを用いて、以下に示す一連の処理機能（マクロ機能）を付加した。

### I. 各種並び替え機能

- a. 氏名ABC順…氏名の検索の他重複入力チェックにも役立つ
- b. 所属ABC順…所属別の参加状況の把握（入金は結構会社名でなされるためこの機能は必須）
- c. 参加種別順…参加種別の案内送付のため（例えば、論文作成要項は、講演者にしか必要ない）
- d. コード番号順
- e. 代金未払い者検索

### II. 印刷機能

- a. 登録全データ印刷
- b. 郵送に用いる宛名ラベルの印刷
- c. 当日用いる名札の印刷

一連の処理の流れを図1に示す。

以上、シンポジウムの参加者登録事務経験から得た、個人情報の処理について簡単にふれた。何分初めてのことであったので、後になってこうすればよかったという点も多かったが、計算機処理を導入し

たおかげで、柔軟な対応もでき、結構うまくいったと自負している。

なお、最後にこの場を少しお借りして、お知らせをお伝えしたい。現在、シンポジウムでの名簿整理の経験を生かして、この「低温センターだより」の発送業務の簡素化を行っている。前号の宛名ラベルから得体の知れぬコード番号が付加され少しばかり様相が変わったのにお気付きの方も多いと思う。これまでに蓄積してきた全ての情報を入力し直しているために、ミスも多々あるかと思われる所以、お気付きの方は、低温センターまでご連絡いただきたい。

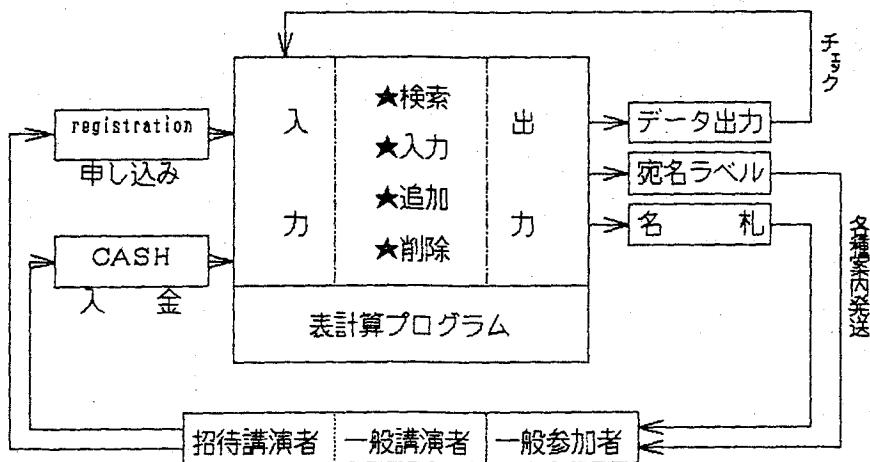


図1 シンポジウム用データ処理の流れ